

沖縄通信

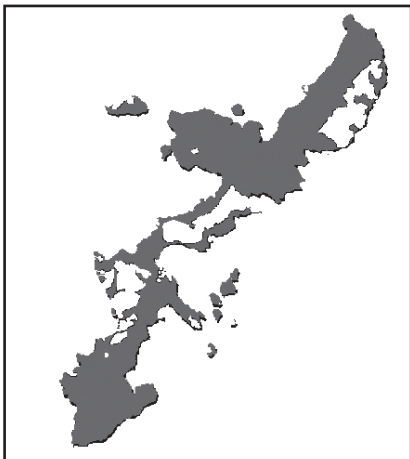
米軍基地の巻

村端 浩

3月25日から4月4日まで、妻の郷里の沖縄にでかけてきました。高齢の母が一人で生活しているので、年一回は必ず行くことにしているのです。今回は、「富山9条ファンクラブ」の事務局長をしている友人夫妻が一緒でした。その希望もあつて、前半は米軍基地や南部戦跡を見てまわりました。紙面をお借りして現在の沖縄の実情をレポートします。

基地の中の沖縄

まず左の図をみてみましょう。これは何でしょうか。そう、穴だらけの沖縄、つまり沖縄本島から米軍専用基地を除いたらこのようになるという地図です。



沖縄には県面積の約1割に日本に置かれた在日米軍専用基地の75%が集中して配置さ

れているのです。

私たちはまず普天間基地の北の端、クリアゾーンと言われる危険地帯に行きました。フェンスぎりぎりまで住宅や畑がひしめき、小学校、幼稚園があります。ちょうど東北地方大震災の直後だったこともあつて普天間基地は大変静か。しばらく前まで嘉手納基地の滑走路が一部使えなくなつて普天間に戦闘機が離発着し、ものすごい騒音をまき散らしたことが報道されたばかりでした。

そのあと沖縄戦で日本軍の陣地とされていた嘉数高地に行き、普天間基地を一望。かつて住民を追いつし、収容所に入れている間に土地をとりあげてつくつた普天間基地

がいかに危険な存在であるかが、展望台に表示された資料などを通してよくわかります。

米空軍嘉手納基地

続いて私たちが向かったのは嘉手納基地が一望できる「道の駅かでな」と、その向かいに基地ぎりぎりにつくられた「安保の見える丘」でした。



望遠鏡で基地の格納庫を見る

嘉手納基地は沖縄の中央部に広がつて、とにかく広いの一言。震災被災地を支援する「お友達作戦」最中の米軍輸送機が発着する程度でこの日は大変静か。4階の展望テラスには、地元のテレビ局などのスタツプが詰めていて、飛び立つ米軍機をチェックしていました。これは過去に見られなかったこと。彼らの望遠鏡を借りて肉眼では見えない戦闘機を見ることができました(右の写真)。

普天間基地の移設に隠れて嘉手納基地の役割はそれほど本土では取り上げられていませんが、この基地こそ沖縄にある米軍基地の要所です。

昨年沖縄防衛局が実施した運用実態調査によると、昨年度の嘉手納基地の離発着などの回数は4万4900回、うち同基地に常駐しないF A 18戦闘攻撃機やF 22戦闘機など「外来機」によるものが31・3%1万4050回でした。常駐機の回数が減り外来機の離発着が急増、それにもなつて騒音の被害も増え続けています。これは沖縄周辺の海空域に広大な米軍専用訓練空域があるためで、各種の戦闘訓練がひっきりなしに行われているためで、沖縄の負担は以前よりも増えているとさえいえるのです。(5月7日赤旗)

辺野古とヘリパッド

翌日向かったのは、普天間基地の移設先としてごり押しされようとしている辺野古。ここでは団結小屋が守られ、地域の人々と連帯してまだに基地の移転を許していません。本土でよく聞くのは、「沖縄は基地で雇用面でも地域経済でも潤っているのではないか」

町議選をふりかえつて

総合選対 山本 伸一

ファンクラブの会員・読者のみなさん、町議選でのご支持ご協力、誠にありがとうございました。

前回選挙に比較して、大変多くのみなさんに具体的な選挙活動にご協力いただき、おかげさまで貴重な2議席を確保することができましたこと、大変うれしく感謝いたします。

「防災と福祉の町づくり」の方向が問われた選挙

今回の選挙は、直前に発生した東日本大震災のもとかつて経験したことのない特異な状況下で実施されました。

私も日本共産党池田支部はこの震災の教訓から学び、「住民の命とくらしを守る」には「福祉」を充実させるとともに、災害に強い「防災の町づくり」が必要であることを痛感し、町政政策を発展充実させ町民のみなさんに訴えてきました。

町民の要求実現にかけがえのない2議席守る

選挙戦は、当初の無投票ムードが告示直前の2名立候補により様相が一変して、複雑で厳しくわかりづらくなりました。そのなかでも2議席確保できた要因は、町や議会の様子をお知らせする「池田民報」や「議員通信」、「ファンクラブニュース」の発行、また要求実現活動など私どもの日常の取り組みが評価されたこと、それ

を支えてくださったファンクラブのみなさんのお力があつたものと確信しております。

町民のみなさんの批判・ご意見をしっかりと受け止め今後の活動を

しかし選挙の結果は非常に厳しいものでした。現職は2名が落選したのをはじめ全員が減票、一方新人は1位から8位までに6名全員が入りました。これは日本全体を覆っている閉そく感が池田町にも存在し、これをふき飛ばすために新しいものに期待したい、そんな町民感情の表れだったのではないかと考えられます。

党の2名の得票合計も、昨年の参院選の得票を180票上回つたものの前回町議選比では232票の減となりました。この結果は真しに受け止めたと思います。

日本共産党の初心、立党の精神に立ち返つて

党支部や議員の日常活動として町民のみなさんの要求や気持ちを充分にくみ取れたのか、党の訴えがみなさんに届いたのかなど、もう一度みなさんの意見をうかがつて今後の活動に活かしてゆきたいと思っています。

これからみなさんのご支持を力として、震災の救援・復興に全力で取り組むとともに、議員を先頭に議会を改革し、町を活性化させるなど公約実現にむけて頑張りますので、一層のご支援ご協力をお願いします。

という誤まつた認識です。沖縄ではすでにそうした論理は破綻し、基地があることで、むしろ安全も地域経済も発展を妨げられているという認識の方がはるかにひろがつているのです。その点、原発の論理と非常によく似ています。

辺野古からさらに北にすすみ、「やんばる」の一角である東村にいま米軍が日本の協力の下に建設を強行しようとしているのが、高江ヘリパッド(米軍ヘリの訓練場)。

フェンス脇にはテントが張られ、女性がつたひとりです。トを守っていました。今はヤンバルクイナの産卵期で工事は中断されていますが、これから米軍と日本政府は人海戦術で米軍のための基地建設を強行してくるだろうと怒りをこめて説明してくれました(写真左)。



ヘリパッド建設現場で説明を聞く一行

コラム 有明

▼64回目の憲法記念日に、日本国憲法と大震災を考える。住まいも土地も、生活手段も愛する人も無残に奪われ、原発事故収束は未だ見えず、なお13万人の被災者が過酷な避難所生活を強制されている▼憲法はいう。「国民はひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有する(前文)」と。それは、「生命、自由及び幸福追求の権利(13条)、居住や職業選択の自由(22条)、健康で文化的な生活を営む権利(25条)、勤労の権利(27条)、財産権(29条)」だ▼これら憲法によって保障された権利は、「国民が人類普遍の原理として享受し」、そのために「全力をあげてこの崇高な理想と目的を達成することを誓う」と国民によびかける▼激しくきしむ大地、押し寄せる海に、東日本太平洋沿岸の市・町・村が瞬時に消失。「救援のために延期を」の共産党の主張も届かず3県を除き実施された地方選挙。フォッサマグナ西端の糸魚川・静岡構造線にある池田町の共産党も、激戦のなか現有議席を確保▼あらたな旅立ちに、憲法が掲げる「崇高なる理想と目的」の実現と、「住民こそ主人公」の民主的な地方自治の在り方を追求するたたかいがはじまる。